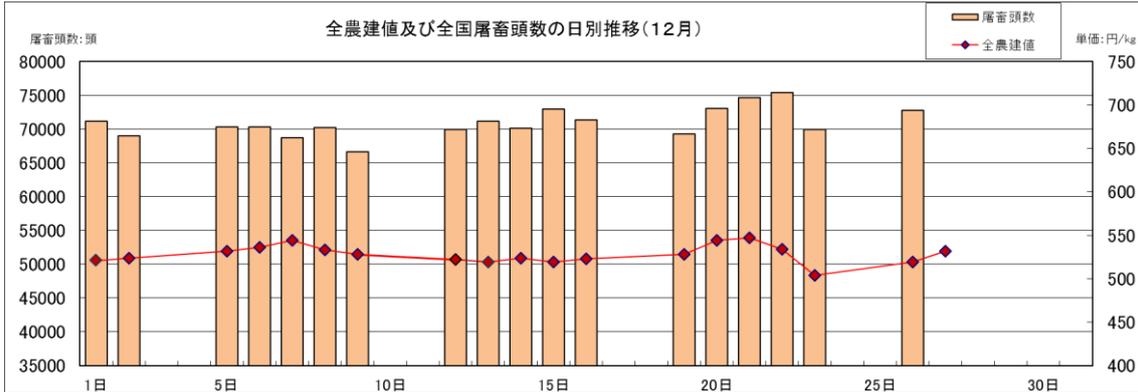


肉豚インフォメーション（12月）

【全農建値】

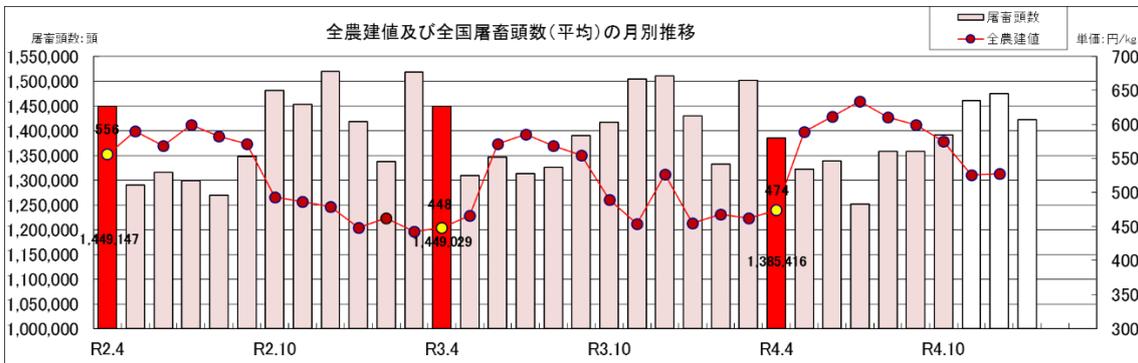
| | |
|--------------|--------------|
| 2022年12月（税抜） | 2021年12月（税抜） |
| 528円/kg（1円高） | 527円/kg |

12月は、寒さが厳しくなる中、年末需要や鍋物需要が期待されたが相場は横ばいに推移し、中旬以降の量販店の引き合いも強くなく年末相場は盛り上げりにかける展開となった。



1月以降の動向

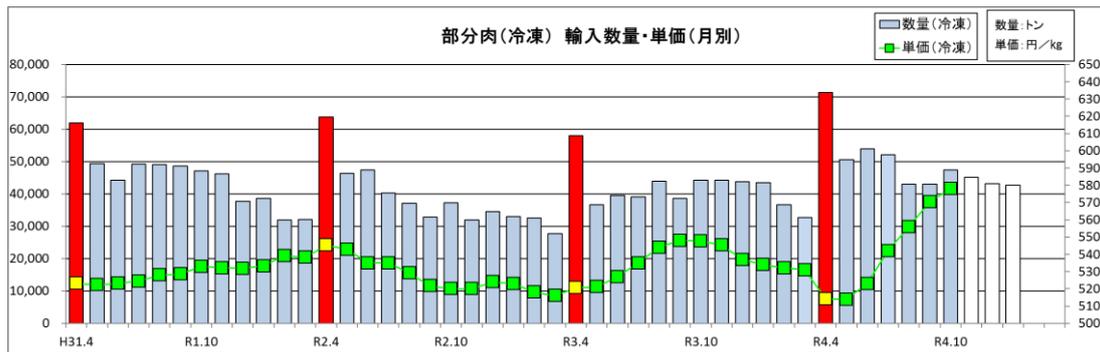
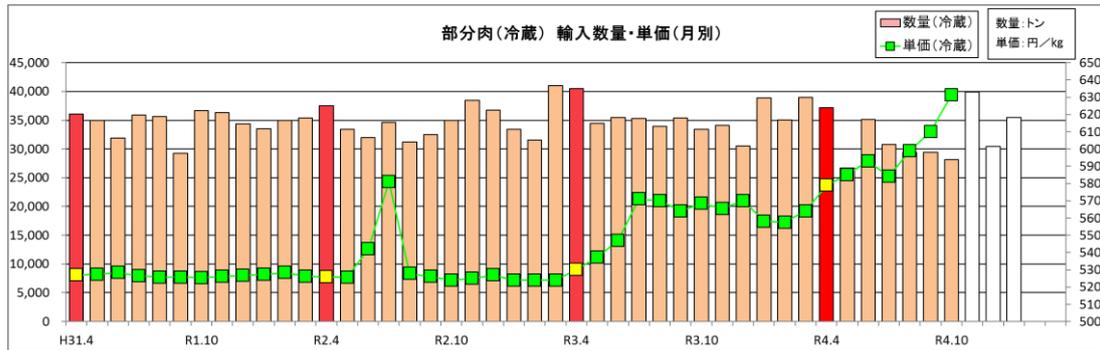
1月の出荷頭数は、前年同月をわずかに下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、12月は、北米の現地価格の高止まりや為替の影響等から、前年同月をわずかに下回ると予想する。1月は、前年同月のカナダからの輸入量が洪水の影響で通関がずれ込み数量が多かったこと等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は、北米の現地価格の高止まりや為替の影響等から、12月、1月ともに前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をわずかに下回ると予測する。

(ALIC 豚肉の需給予測について 12月26日)



公益社団法人 日本食肉格付協会は、26年ぶりに改正した豚枝肉取引規格の運用を1月から開始し、各等級(極上・上・中・並)の重量範囲について上限・下限それぞれ3kgずつ引き上げた。相場や生産量への影響は今後注視しなければならないが、生産者は所得増大につながるよう出荷重量も3kg引き上げるなど新規格に合わせた出荷が求められる。

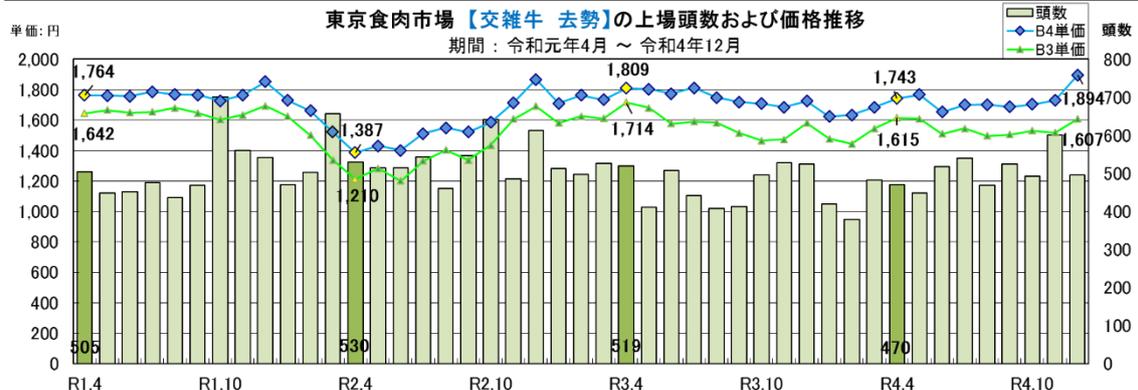
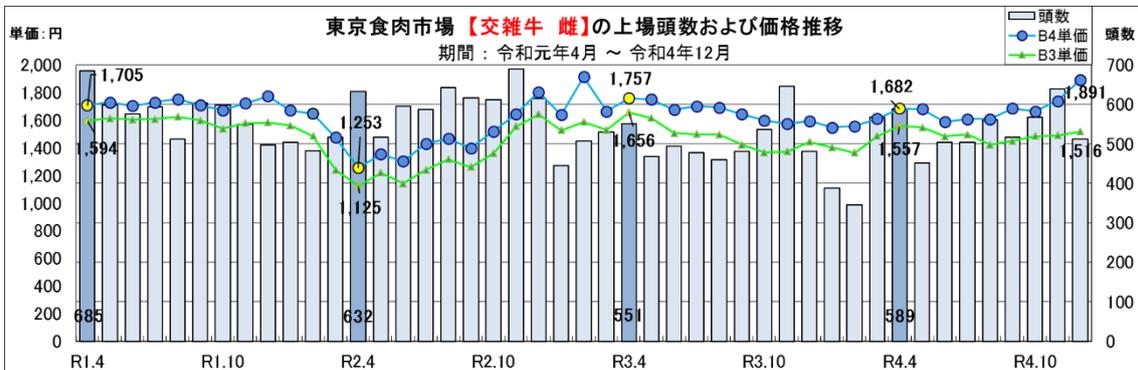
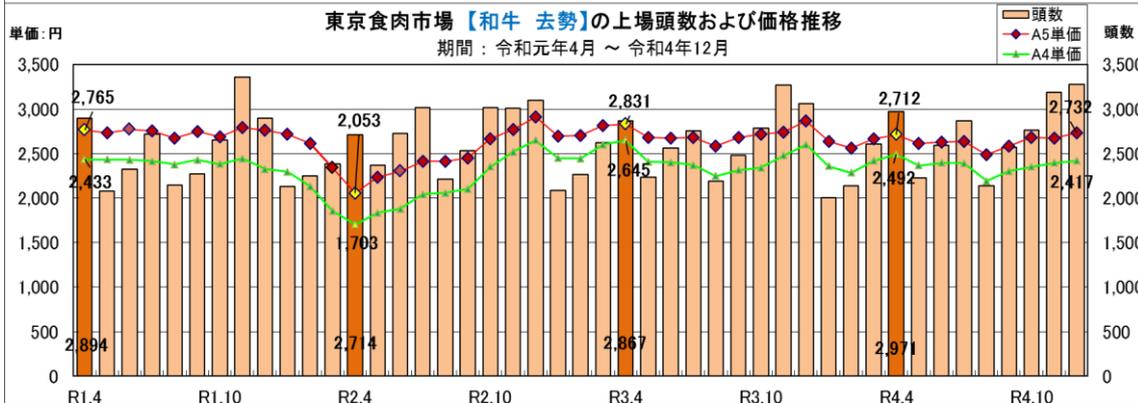
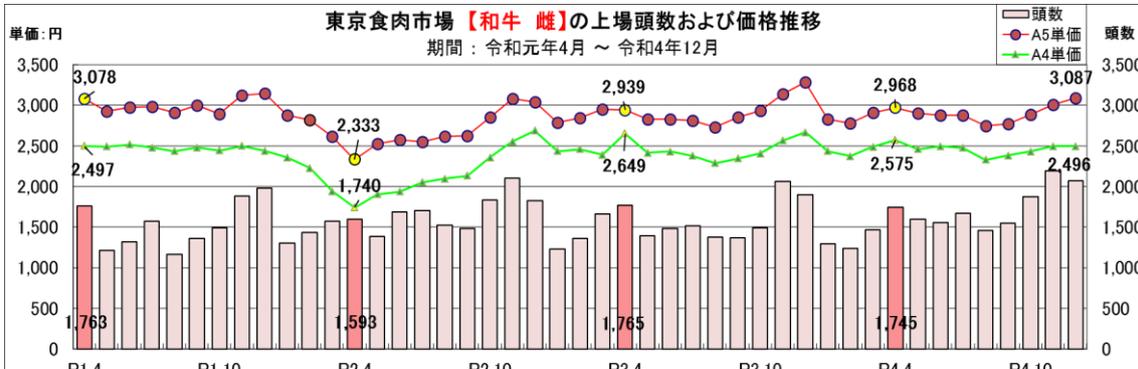
1月の相場は下げる見通し。

全農建値(税抜) 予測レンジは450円~530円とする。

肉牛インフォメーション（12月）

● 12月の動向

12月は上旬から中旬頃までは堅調に展開したものの、下旬は大幅に相場を下げた。和牛は雌、去勢ともに上物は相場を維持した。一方、交雑牛は歩留りの良い牛は高値を維持した。



● 1月の動向予測

卸関係によると、昨年中は相場が年間を通して前年を下回ったことなどから、卸先に提案しやすい年だった。今年も引き続き提案しやすくなるとみられているが、生産者にとっては飼料高騰等のなかで大変厳しい年となることが予想される。

1月相場は「下押しから弱もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5等級 2,500円（税込み） A4等級 2,350円（税込み）

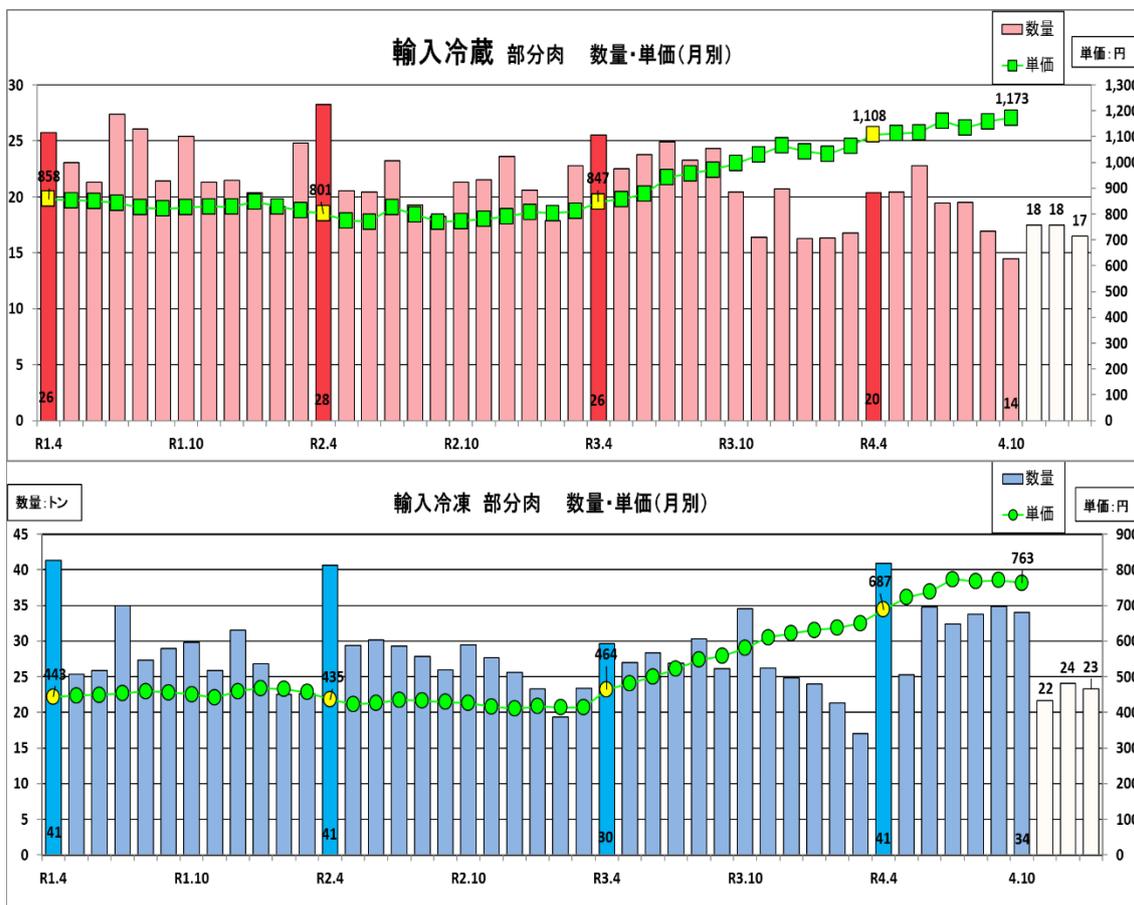
交雑去勢 B4等級 1,650円（税込み） B3等級 1,450円（税込み）

● 輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、12月は、国内需要の低下や為替の影響により、豪州産と米国産を中心に減少となり、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。1月は、12月と同様に例年よりも低水準となるが、前年同月の米国産、豪州産の輸入量が現地価格の高止まり等により少なかったことから、前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、米国産は前年同月を上回るものの、冷蔵品と同様に国内需要の低下等による減少が見込まれており、12月、1月ともに前年同月をやや下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

（ALIC牛肉の需給予測について12月26日）



●消費動向

今年は牛肉価格の上昇で売れにくくなる一方、消費が豚肉や鶏肉に需要が集まるとの見解も。物価高騰が消費行動を慎重にさせる可能性が高いものの、円安によるインバウンド需要の増加等で外食関係の回復に期待したい。いずれにせよ先行き不透明な1年となりそう。

●全農茨城県本部家畜市場動向

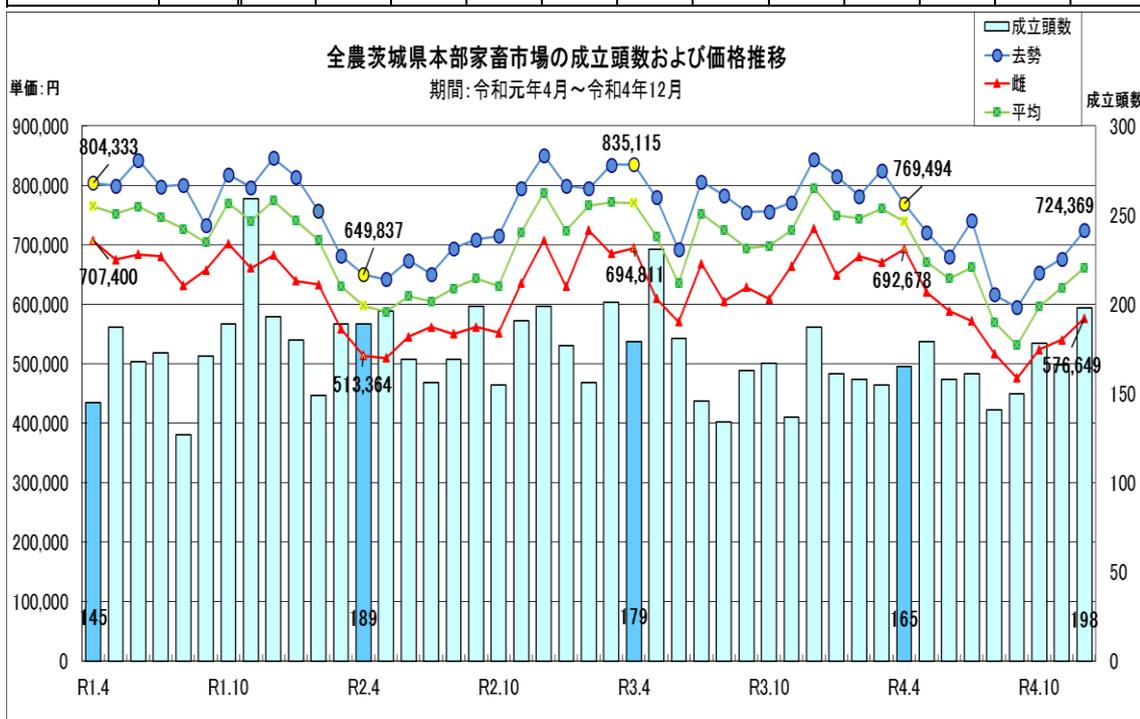
素牛平均価格（1月税込）は、黒毛和種の雌は576,649円で前月比+36,046円、去勢は724,369円で前月比+47,941円となった。上場頭数（成立）は198頭で前月比+32頭。

次回上場頭数は180頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

(税込)

| | 年間平均 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2年度 平均単価 | 673,129 | 597,847 | 587,552 | 614,164 | 605,310 | 626,590 | 643,417 | 630,988 | 721,612 | 787,489 | 723,844 | 766,531 | 772,200 |
| 去勢 | 734,165 | 649,837 | 642,142 | 674,214 | 650,911 | 694,492 | 709,130 | 714,912 | 794,798 | 850,944 | 799,476 | 794,563 | 834,562 |
| 雌 | 598,275 | 513,364 | 510,047 | 545,753 | 561,990 | 550,285 | 562,199 | 552,310 | 635,950 | 707,450 | 630,022 | 724,591 | 685,339 |
| 3年度 平均単価 | 730,497 | 770,842 | 714,424 | 635,683 | 752,483 | 724,531 | 694,491 | 698,157 | 724,764 | 795,341 | 749,776 | 744,087 | 761,385 |
| 去勢 | 787,183 | 835,115 | 780,016 | 692,025 | 806,078 | 783,500 | 754,794 | 756,500 | 771,029 | 844,433 | 815,667 | 781,744 | 825,290 |
| 雌 | 648,362 | 694,811 | 609,771 | 570,768 | 668,800 | 605,318 | 628,777 | 608,940 | 663,598 | 728,228 | 649,911 | 680,900 | 670,519 |
| 4年度 平均単価 | 633,788 | 739,233 | 671,234 | 643,591 | 662,357 | 569,995 | 531,740 | 596,089 | 628,153 | 661,700 | | | |
| 去勢 | 686,494 | 769,494 | 721,233 | 680,689 | 741,157 | 616,499 | 594,914 | 653,667 | 676,428 | 724,369 | | | |
| 雌 | 567,670 | 692,678 | 620,672 | 589,102 | 572,000 | 517,150 | 476,244 | 523,934 | 540,603 | 576,649 | | | |
| 2年度 成立頭数 | 178 | 189 | 196 | 169 | 156 | 169 | 199 | 155 | 191 | 199 | 177 | 156 | 201 |
| 3年度 成立頭数 | 167 | 179 | 231 | 181 | 146 | 134 | 163 | 167 | 137 | 187 | 161 | 158 | 155 |
| 4年度 成立頭数 | 166 | 165 | 179 | 158 | 161 | 141 | 150 | 178 | 166 | 198 | | | |



食肉インフォメーション（12月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査 11 月度結果報告によると、コロナ感染第 8 波拡大中も行動制限がなかった他、相次ぐ価格改定により前年比 108.9%となった。しかし原材料や電気・ガス代、人件費等の高騰が値上げでカバーしきれないほど大きいものとなっており、消費者の節約志向も重なって、回復の勢いには乏しい。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3 団体の 11 月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は 1,178 億円(前年同月比 104.0%、既存店ベース 102.6%) で、相場高騰が続く中でも豚肉は気温低下に伴い鍋物用のスライスが好調だった一方、牛肉は国産・輸入ともに振るわなかった。鶏肉も鍋物用の規格が好調だったが、鳥インフルの影響で原料調達に苦戦し、伸び悩んだ地域もあった。

12 月は食肉の最需要期で、今年は行動制限のないクリスマス・年末年始に向けた動きが外食・量販ともに活発になる予想だが、相場の高騰や各種食品の値上げラッシュが続く中で、自粛傾向が強まる消費者にどこまで訴求できるかが焦点となる。

○牛肉

11 月は、国産では全国旅行支援やインバウンドの回復により、外食向けで和牛のヒレ・ロース・肩ロースといった高級部位の動きが良くなったが、量販向けでは煮込み用のスネが中心だった。輸入物は価格高騰により国産の交雑・ホルスへの代替需要が続いており、荷動きは鈍かった。

○豚肉

11 月は、国産では天候に恵まれ肉豚出荷が好調となり、全体的に安定した荷動きとなったが、冷蔵原料の販売好調により冷凍原料在庫が薄くなっていて、年末への影響が心配される。輸入では引き続き相場高と円安により荷動きは鈍かったが、気温低下に伴いバラの動きが活発になった。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和 4 年 11 月期） 単位：千円、%

| 年度 | J A | どきどき | 給食 | 仲卸 | 食肉 専門店 | 量販店 | 飲食店 | 合計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|-------|---------|
| 令和 2 年 11 月 | 11,738 | 16,463 | 13,691 | 53,849 | 14,837 | 12,607 | 6,922 | 130,107 |
| 令和 3 年 11 月 | 12,228 | 15,984 | 13,421 | 34,384 | 17,323 | 10,980 | 7,215 | 111,535 |
| 令和 4 年 11 月 | 15,380 | 14,544 | 15,495 | 30,900 | 19,354 | 10,679 | 7,202 | 113,554 |
| 増減 (R4-R3) | 3,152 | -1,440 | 2,074 | -3,484 | 2,031 | -301 | -13 | 2,019 |
| 対比 (R2/R4) | 131% | 88% | 113% | 57% | 130% | 85% | 104% | 87% |
| 対比 (R3/R4) | 126% | 91% | 115% | 90% | 112% | 97% | 100% | 102% |